

2022年7月15日 第3394回例会

ガバナー公式訪問 於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 前田 会長
<斉 唱> 「それこそロータリー」
<ゲスト紹介> *国際ロータリー第2780地区ガバナー 佐藤 祐一郎 様
*国際ロータリー第2780地区第1グループAG 宮本 清志 様
* AG付幹事 赤木 慎一郎 様
<会長報告> *ガバナー事務所より
・2023-24年度派遣 青少年交換学生募集について
クラブ内又はガバナー事務所書類送付〆切 10月20日(木) 必着
選考試験 第1日(筆記試験等) 11月12日(土)
第2日(面接試験等) 13日(日)
(その他詳細はチラシ掲載)

- <委員長報告> *社会奉仕委員会 加藤 博 委員長より
障がい者支援事業者商品の即売会を毎月第2・4週の例会で開催。
*会員増強・会員維持委員会 小林(一) 委員長より
20名程の勧誘候補有。勧誘時に使用するパンフレット作成中。
<幹事報告> *2021-22年度国際ロータリー第2780地区 地区大会報告書 受領
*ガバナー月信 No.1 受領
*例会終了後、佐藤ガバナーとの懇談会開催(例会場)

- <出席報告> *出席委員会 加賀本委員より7月15日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
114名	103名	82名(8名)	21名	0名	79.61%

<ニコニコ報告>

- ・国際ロータリー第2780地区ガバナー 佐藤祐一郎様
本日は本年度1回目の公式訪問です。皆様とお会いできるのを楽しみにしておりました。どうぞ宜しく御願い申し上げます。
- ・国際ロータリー第2780地区第1グループガバナー補佐 宮本清志様
本日は佐藤ガバナーと同行で参りました。
- ・国際ロータリー第2780地区第1グループガバナー補佐付幹事 赤木慎一郎様
本日のガバナー公式訪問よろしく御願います。
- ・三 役 国際ロータリー第2780地区ガバナー佐藤祐一郎 様 ようこそお出で下さいました。本日の公式訪問よろしく御願いいたします。
- ・大野 健、梁 井、比 護、大 石、松本 剛、新倉 健、小 平、佐久間、上 林、植 田、江 沢、加賀本、濱 田、小山 剛、福 西、田 村、猿 丸、岡田 健、江 口、鷺 尾、田 邊、澤 田、小 沢、吉 田、北 村、小佐野、八 巻、高 橋、勝 間、前 川、藤 村、杵 渕、渡 邊、鈴木 健、齋藤 眞、飯 塚 各会員
国際ロータリー第2780地区ガバナー 佐藤祐一郎様、ようこそお越しくださいました。本日の卓話大変楽しみにしております。どうぞ宜しく御願いいたします。
- ・鈴木 健 会員 佐藤ガバナー、1年間元気で頑張ってください。
- ・三 役 国際ロータリー第2780地区第1グループガバナー補佐 宮本清志様、補佐付幹事 赤木慎一郎様ようこそお出で下さいました。よろしく御願いいたします。
- ・佐久間、植 田、濱 田、高 橋、齋藤 眞、杉 浦 各会員
国際ロータリー第2780地区第1グループガバナー補佐 宮本清志様、補佐付幹事 赤木慎一郎様ようこそお出で下さいました。本日もどうぞ宜しく御願いいたします。

- ・Loknath、八 卷、前 川、鈴木 鞠 各会員 コロナ禍で休止していた青少年交換派遣事業が来年 2023年に再開されます。学生が国際社会に関わることができる素晴らしい機会です！地区青少年奉仕委員会委員長 岡田英城会員、青少年交換委員会副委員長 勝見慎一会員、準備も大変ですが未来の若者の為に頑張ってください！
- ・三 浦、石 田、岩 崎、二 瓶、木 村、澤 田、吉 田、
小山 颯、馬 場、白 井、徳 永、高 橋、根 岸 各会員
高校野球、神奈川県予選、横須賀学院初戦惜しくも敗退、三浦学苑初戦圧巻のコールド勝ち！次戦もがんばれ！

<卓 話>

国際ロータリー第2780地区
ガバナー 佐藤 祐一郎 様

ご紹介ありがとうございます、佐藤でございます。大勢の皆さんにお集まりいただいたこと、本当に感謝を申し上げます。また、たくさんのニコニコをありがとうございました。

私がガバナー補佐の時代のガバナーは、お亡くなりになられた横須賀クラブの渡辺治夫パストガバナーでした。横須賀クラブは多くの役員の方を輩出されていることから、大勢の方と面識がございます。日頃より地区の運営にもご協力いただきまして、本当に心から感謝申し上げます。

「IMAGINE ROTARY」が今年度のジェニファー・ジョーンズ会長が掲げられたテーマであり、私なりの解釈で皆様にお話ししたいと思っております。皆様ご承知だと思いますが、ジョーンズ会長は「想像してください ポリオのない世界を。想像してください みんなが安全な水を使う世界を。想像してください 病気のない世界を。想像してください すべての子供が読んだり書いたりする世界を。想像してください やさしさ、希望、愛、平和を」すべてポジティブな良いイメージを描こう、ということを言われました。私たちが、私たちの将来、ロータリーの将来、あるいは世界の将来を考える時に、ネガティブなことは考えない方がいい、むしろ、5年後10年後私たちはどんな素晴らしいことができるだろうかということを考え、そのために私たちは努力する、行動していく、その方が楽しいと思っております。ネガティブな事柄について考え、それを繕うように行動する、考えることは面白くともなんともないと思っております。そうではなくて、良いこと、良い方向を考えていくことが、私たちの行動を明るくするし、楽しくするということなのだろうと、私なりに解釈しております。有名なジョンレノンのイマジンの曲で、僕は、1番最後のあのフレーズが好きです。「You may say I'm a dreamer But I'm not the only one」(みんな夢想家だと思えるかもしれないけども、私は1人じゃないよ)というフレーズ。私がつくづく感じているのは、例えば、私がここでこんなことを話していられるのは、たくさんの人に助けられているからで、私が1人じゃないからだなという風に思っていますし、これはいわゆる、行動への呼びかけ、みんなで行動しようということの呼びかけのフレーズだという風に私は思います。なんとジョーンズ会長も同じことをおっしゃっていました。みんな夢があって、そのために行動するかどうかは一人ひとりに託されているので、それはロータリーにおいても、クラブが大事、クラブの独自性が大事であると同時に、一人ひとりロータリアンが行動していくということがとても大事なのだろうと思います。ジョーンズ会長は、あんまり細かいことは言っていません。会員数を増やせとか、地区でセミナーを開けるとも言わないのです。そのようなことではなく、彼女が言っていることは、会員一人ひとりの、クラブの中での存在感、居場所を作っ



てあげなさい、思いやりと心地よさと配慮という言葉を使っていますが、そういうクラブにしてくださいと言っています。会員1人1人がクラブに参加したいと思うような、居心地が良いクラブにしなくてはならない、そこからみんなの行動が始まるということをジョーンズ会長は言われていました。ジョーンズ会長が言われていることは、数字の目標は無いですし、わかりにくいところもあるのですが、私にとってはとても印象的で、皆さんに伝えやすい、自分の気持ちをかぶせて伝えることがしやすい考え方だと思っています。

「DEI」について、少しだけお話しします。Iはインクルージョンで、開放性・包括性と訳されていますが、日本語の単語で当てはまるものがないので、インクルージョンがそのまま使われています。Dはダイバーシティで、多様性を表しており人種や宗教など広い意味での多様性を持つことを意味しています。そしてEは公平性です。公平性で気をつけなければいけないのは、機会の公平性ではなく、結果の公平性ということです。クラブにしる、社会にしる、多様な人の特性を活かし、役割を与え、得られた果実を参加した人全員に分けることで、多様性と公平性を両立することができるということなのだと思います。インクルージョンはこの二つの発展系で、それぞれの人に役割を与え、皆と一緒に物事を進める関係を構築し全ての人をその関係性に囲い込むという意味なのだと思います。「DEI」は非常に難しいのですが、例えば、シェカール・メータさんは、DEIを実践するために「他者を尊重する言葉を使う」「サポートを示す」「温かく迎え入れるインクルージョンな環境を作る」「多様性を重んじる」という4つのことを行うと言われています。また、ジョーンズ会長も4つ挙げています。「DEIについて正しく学び、地域の発展やクラブの発展にどう役立つかを理解すること」「DEIに関する行動を起こす」「理解を深める」「みんなが参加する」。ジョーンズ会長はローターアクトを含めたロータリアンはリーダーであり、地域社会に影響を与える力を持った人たちの集まりであるので、自分たちが率先してDEIを意識した行動をとることで、地域社会に影響を与えなさい、そういう力があるはずだと言っています。社会のムーブメントをつくりだしDEIの考え方を広める、その義務とそれだけの力を持っているという言い方をしています。

ジョーンズ会長の方針を受けまして、私は地区の指針というのを作りました。実はジョーンズ会長の方針を聞く前に作っていたので、手直しが必要かと思い、思案したのですが、ほとんど手直しの必要がなかったというのが現実です。私が考えていた方針は細かな数値目標を出すのではなく、「各クラブで目標を立てなさい」、ということでした。会員増強の目標も、各クラブの事情も考えず、1クラブ何人増やせとか、何パーセント増やすという目標を設定することはとてもナンセンスだと思っています。もちろんクラブの人数を増やすことは大事です。しかしそれは各クラブで考えて設定しましょうということです。そこで私はたった2つだけベースの方針を作り、皆さんに提示しました。「取り戻そう！」「記憶に残る年にしよう！」この2つだけです。「取り戻そう！」についてですが、コロナ禍になり激減した会員数を初め、実施できなかった奉仕活動など早く取り戻したい。それが回復したら、ロータリーは117年の歴史がありますので、その歴史の中で、私たちが本来持っているもので、失っていたり、希薄になっていたりするものがあれば、それはもう1回再確認をして、必要かどうかを確認して、それを取り戻す必要があるだろうと思っています。この一例として、5年程前の神戸で行われたロータリー研究会での出来事をお話しします。3日間の日程の最後に、「ポリオはいつ終わるのでしょうか。RIはどのような計画を立て、いつ収束するとお考えですか」という質問ができました。この質問に当時ポリオを担当されていた小沢一彦会員が「そんなことはわからない。しかし、ロータリアンの誇りにかけてポリオが無くなるまでやるのだ。それがロータリアンの誇りだ。」と回答されました。場内割れんばかりの拍手が起きました。私はこの時、これはとても大事なことだと思い、今でも記憶に留めています。私たちが忘れてはいけないもの、それは誇りであるとか矜持といえましょうか、こういうことは忘れてはいけないことだと私は思います。これも各クラブで、何を取り戻すか、クラブで考えていただきたいと思います。会員数を増やす、親睦活動を増やす、奉仕活動を増やす、寄付を増やすなど、なんでも良いと思います。その時是非、なぜ自分たちはロータリーをやっているのかということをも根本から考え、矜持や誇りといったことを思い出していただきたいと思います。

もう一つのフレーズ「記憶に残る年にしよう！」ということをお祈りしています。何を記憶に残すかというのは、皆さんに考えていただきたいと思います。内容は何でも良いと思います。そういう1つ1つの積み重ねがクラブを発展させ、皆さんの絆を深め、仲間を作ることになのではないかなと私は思います。ぜひ、今までになかったような、また今までやっていることでしたら、それをさらに上回るような記憶に残るようなことをやっていただけたら面白いのではないかなと、私の提案でございます。

今、仲間を作るという話をしました。仲間を作る仲間とは何か。ロータリーでは、フレンドシップではなくフェローシップとよく言いますよね。フェローシップってどういうことかと言うと、ただの友達ではないです。1つの目標に向かって、みんなが肩を組んでスクラムを組んでみんなで行こう、まさに同じ釜の飯を食うじゃないですけど、汗水垂らしながら、同じ方向をみんなが向いている状態です。お互い向き合っているわけじゃない。みんなが同じ方向を向いて頑張った時にできる人間関係。一緒に汗かいたのですから、一緒に涙流したのですから、そういう人と作る人間関係がフェローシップだと私は考えております。そしてその仲間を増やすことは必要だし、そういうことを念頭に取り戻したい。記憶に残る年にしたい、と私は思っています。会員増強は、ある人が、増強は奉仕活動だと言っていました。その人が増強委員長で、そのクラブはその人が増強委員長の時に17人を増やしました。相模原のあるクラブの話です。彼は「祐ちゃん（佐藤ガバナー）、会員増強は、奉仕なんだよ。なぜって自分はここにいる、自分に誇りを持てるだろう、楽しいだろ、みんなのためになるだろ。これは嬉しいでしょ。仲間がいっぱいできるでしょ。これを俺は、俺の友達、知人に、ロータリーは素晴らしいから入れよって言って、誘ってやる。これ、絶対奉仕だろ」って言うんですね。私は「そう、そうだよ。」と答えました。人数増えれば奉仕活動するにしても人手が増えるし、そういう意味で増強は絶対の奉仕だと言っていました。ぜひ、もっと仲間を作ってください、ますます素晴らしいクラブにさせていただきたいと思います。最後に論語に「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」という格言があります。意味としては、物事を知っているだけでは好きになっている人になかなかない、そして好きになっている人も、物事を楽しんでいる人にはかなわないという意味です。皆さんもぜひ、ロータリーの事、仲間のこともよく知って、それを好きになって、そして楽しむことができるような1年間にさせていただきたいし、それがずっと続くことを願っています。今日は皆さんにちょっとだけ私の考えをお伝えさせていただきました。今日はありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 前田 会長

週報担当 来生 亮